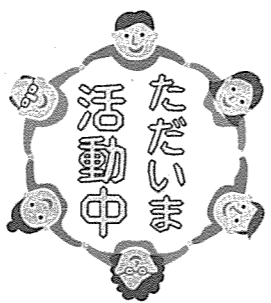




一列になって走るメンバー (23日、さいたま市緑区で)

23日午前8時。さいたま市緑区の見沼自然公園にサイクリングという回転音とともに、そろいのユニホーム姿の男女が一列になって颯爽



と入ってきた。公園にはロードバイクがずらりと並んでいる。緊急事態宣言が解除され、今月から再開した恒例の朝練だ。

父と一緒に参加した小学4年の土浦大祈君(9)は「少し寒かったけど、風が気持ちよかった。久しぶりで楽しかった」と笑顔で話した。練習後はメンバー同士で雑談したり、さらに走ったりもする。

「自転車好き」でつながり

サイクリングクラブ「AMBCO(アンビコ)」(さいたま市)

【こんな団体】 メンバーは、さいたま市民を中心に小学生から80歳代まで幅広い。毎週日曜午前7時にサイクルショップ大牧を出発して、見沼の田んぼ道を通り見沼自然公園をゴールとする朝練を行っている。自転車はロードバイクが多いが、クロスバイクやマウンテンバイクでも参加できる。



「アンビコ」のメンバー

クラブは1991年、同区の「サイクルショップ大牧」の常連客5人でスタートした。みんな楽しく走ろうと、メンバーの条件は「自転車が好きの人」だけ。小学生は保護者と一緒に参加することが条件だが、だれでも歓迎していて、現在は約30人が所属している。自転車は車両なので原則として車道を走り、集団で走るときは縦一列にな

る。右折や左折時は曲がる方向に腕を伸ばして指をさす。停止するときは背中に手を置いて後ろの人に手のひらを見せる。声かけも重要だという。

県サイクリング協会所属クラブとして、安全に走るためのルールやマナーを子どもたちに教えている。クラブ代表の小野崎繁幸さん(58)は「一人よりみんなで行った方が楽しい。ルールを覚えて安全に楽しくがモットーです」と話した。いろいろなメンバーがいる、会社員や医師、1級建

築士なども所属している。

岩槻江戸木目込人形の伝統工芸士の森田敏正さん(60)は「仕事はずっと座っていて、細かい作業の連続。休みの日は体を動かして気分をリフレッシュさせている。仕事に打ち込むためにも、週に一度の練習は大切で、話したくない職種の人と関わることで新しい発見がある」と話した。

小野崎代表は「これから自転車を通して、たくさんの人と出会っていきいたい」と語った。

チーム発足レースに参加

2015年にはクラブのメンバーが中心となって、地域密着型の実業団チーム「サイタマサイクルプロジエクト(SCP)」が発足した。現在は14人の選手が所属している。

チーム結成のきっかけは、13年から始まった自転車ロードレースの「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」。開催都市のさいたま市に、地元を根ざしたチームがないことから、クラブのメンバーが呼びかけた。

(金山真梨)